コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年10月30日

BMJ:

新型コロナは軽症化したのか？

【松崎雑感】

新型コロナに感染した場合の死亡率は確かに相当下がっていますが、感染する人々が10倍になれば、死亡率が10分の1に減っても、犠牲者の数は同じです。さらに、感染しても軽症で済んだ人々もロングコロナによって、長期間働けない状態になることで、社会全体へのインパクトはとても大きいのです。したがって、社会全体としては、コロナは引き続き重大な健康と経済に対する脅威となって存在し続けます。

松崎道幸　道北勤医協ながやま医院　matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

新型コロナは軽症化したのか？

Looi MK, Mahase E. Has covid-19 become milder?. *BMJ*. 2022;379:o2516. Published 2022 Oct 27. doi:10.1136/bmj.o2516

死亡と入院数は減ってきた。これは新型コロナが軽症化していることになるのか？
本誌は専門家に取材した

新型コロナは本当に軽症化しているのか？

そうではない。

本稿執筆の時点の2022年の死亡数は110万人を超えており、引き続き重い感染症と言える。

感染歴やワクチン接種歴のない人々にとっては、入院、重症化、死亡リスクが高いままである。

中国のように住民の多くが未感染の地域が残っており、ワクチンの種類によって効果がさまざまであるため、新型コロナに感染しても重症化しないと即断することは適切でない。

「人々が持っている新型コロナ免疫が一様でないために、特定の変異株に感染しても重症化しないかどうかを判断することはとても難しい。確かにオミクロン株は、肺の奥に感染する恐れが少ないので重症化しにくいが、感染力がとても高いので、感染者の絶対数が増えるとそれなりに重症の人々も多くなる。したがって、医療機関への圧迫も極めて大きくなる」とリード大学准教授スティーブ・グリフィン氏は語る。

エクセター医科大学の上級臨床講師デビッド・ストレイン氏は、新型コロナに感染すると基礎疾患の悪化するおそれが高くなると指摘する。「例えば、クローン病で治療中の人々がコロナに感染すると、消化器症状や関節炎が増悪することが多い」

ロング医科大学リハビリテーション部門教授モニカ・ベルドゥスコ・グティエレスは、急性期の症状が軽くともロングコロナに陥る事があると強調する。

彼女は再感染した場合どのような健康影響がもたらされるかも十分に分かっていないと指摘した。

退役軍人省の600万人の医療データベースを解析した結果、新型コロナに1回だけ感染した人々と比べて、2～3回感染した人々は、感染から30日以内で、心機能障害、腎機能障害が極めて高くなっていたという。

なぜ軽症化しているように見えるのか？

ウイルスの変異と人々の免疫レベルの高まりによって、多くの国で感染の様態が変化している。今年、イギリスでは入院と死亡リスクが低下している。

グティエレス氏は「パンデミック初期の武漢株は重症化リスクが高く、急性期を過ぎても体調不良が続くことが多かった。一方、ワクチン接種が進んだため、感染しても軽症化するようになった。しかしウイルスの性質それ自体が軽症化したわけではない」と語った。

本誌に、オミクロン株（BA．1/2）はデルタ株よりも軽症感染に終わるという論文が出されている。

WHOも、オミクロン株が主に上気道に感染する傾向があるため、二次感染源となりやすい一方、肺炎を併発して重症化するリスクが少ないと述べている。

変異株によって重症化リスクが違うのか？

グラスゴー大学の感染症教授エマ・トンプソン氏は王立医学協会のイベントで「アルファ株はオリジナル株より重症だった。デルタ株はアルファ株より重症だった。しかし、オミクロン株は重症化の方向には向かわず軽症に転換した。しかしウイルスというものは簡単に変異する。ランダムな変異の結果、より重症化する変異株が生まれる恐れは常にある」と述べている。

カリフォルニア州スクリップス研究所分子医学教授エリック・トポル氏は「新型コロナウイルスはより感染力と生存能力を高めつつあるが、ヒトの免疫はわずかずつ強くなっている。その結果、ウイルスの方に分が良くなっていると」語っている。

グリフィン氏もこのウイルスが驚くべき速度で変異を行っていることに懸念を示している。

「とても適応力の高いウイルスだ。ウイルスはもうこれ以上変異する必要はないとは全く考えない。さらに生存力の高い峰を目指して飛躍的に変異を行っている。われわれの免疫機構を極めて巧妙にすり抜ける能力を持つように、驚くべき速さで変異している」と。

ストレイン氏は、初期のオミクロン派生株BA．2について、「急性期の症状はそれほど重くならないが、ロングコロナ状態となった場合、健康被害が大きくなっている」と語っている。

彼の病院では感染したスタッフの15～20％が倦怠感を長く訴えているという。仕事ができるようになるまでに数か月かかることが多いという。しかしBA．4/5が流行するようになると、この状態は改善したという。

ロングコロナは本当に大問題なのか？

グリフィン氏は、イエスと答えている。新型コロナ感染者が引き続き高いレベルで発生しているからだ。彼は「コロナ感染が多いことをノープロブレムと思い込むことに私は反対だ。『ウイズコロナ（コロナと共存する）』という考えに強く反対する。根本的に間違っている。感染に弱い人々のことを無視した考えだ。ロングコロナの重大さを理解していない」と。

英国財政研究所の7月の報告書によれば、ロングコロナとなっている人々の1割は仕事に戻れないままであり、多くは失業ではなく病気による欠勤を選択している。現在のレベルが続くと、およそ11万人の労働者が病欠であると試算している。グリフィン氏は「業種別でみてみると、対面の仕事が多い教師、ソーシャルワーカー、ヘルスケアワーカー、バス運転手などの病欠が多い」と語っている。

トポル氏は「我々はロングコロナを増やしてしまった。感染を広げてロングコロナが増えるに任せる結果となったことは残念だ。受け入れられない。とても多くの人々がコロナとのたたかいを止めてしまった。効果の高いイノベーティブな対策があることが分かっており、資金もあったはずなのだが、コロナと戦うことに優先的に資源を動員することをしなかったことは極めて残念だ。行うべき賢明な投資を減らすという間違いを犯した。新型コロナウイルスを打ち負かすための資源投入を怠ったために、われわれには、将来大きなつけが回ってくるだろう」と語った。